
カレシとカノジョ（仮）

羽沢静夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カレシとカノジョ（仮）

【Nコード】

N4902F

【作者名】

羽沢静夜

【あらすじ】

二人の幼馴染冬花の一言から始まる恋人ごっこ

コイビトゴツコ

登場人物 ときや 時谷秋亮 しゅうすけ

かれの 枯乃冬花 とうか

冬花の一言から始まった、恋人同士「モドキ」のお話

キーンコーンカーン・・・

「よっしゃああああ！！今日の授業終わって明日からさんれーんき
ゆううう！！！」

俺は落書きや傷でボロボロの教科書を急いでかばんにしまっていく
勉強も大してしないのにぼろぼろの教科書、荒っぽい使い方ですく
が擦り傷のあるかばん

ちなみに勉強しないのに教科書をボロボロにする自信は誰にも負
けない、自慢する事じゃないがな。

俺は黒板の上にかけてある味気の無い時計の時間を確認した

今はまだ4時すぎ・・・10分か・・・これから帰って菓子食って、

ソファでうたたねして

おいおい、めっちゃ最高じゃないか、いつもの事だが

先の至高の時へゴールするため、教室を後にしようとしたその最中

「おい、秋亮、彼氏になってくれないか？」

背中で幼馴染の理解できない、いや、したくない言葉が聞こえた

「・・・」

天国から地獄へ落ちる、へぶんからへるへ

俺はゆっくりと机にしまった椅子をだし、そこへどすんと座り、二つの机を向かい合わせにして、冬花を座らせる

後は小さいライトを置けば完璧な取調べだ

「ああ・・・お前アックシェイクのいちご味が好きなんだよなあ？
今ならアップルパイもつけてやる、わかるぞ、お前の冗談ってのは
わかりにくい冗談だからな、な？な？」

今ならまだくつろげる時間、わかってる、天は我に味方する！！

「何を言ってる私はいつもホンキだぞ？」

「あああああああああつあああああ！！！！」

俺はホンキだの部分で悲鳴をあげた

机を二回ぐらい頭をゴンゴンぶつけた後、痛すぎて悶絶し、冷静を保つ

「なあ・・・？何でもそんな考えを？なんなの？死ぬの？」

どう考えても美人な部類に入る冬花、キリっとした目、スレンダーな細い体、髪は青で背中の中分あたりまで伸びている

なのになんで・・・

「私は彼氏ができた事がない、だからできたらどんな風になるのか体験してみたいんだ」

「ああ・・・そうか・・・」

「何だ？」

「いや、何でもない、登場人物団体名一切関係ありません」

「はあ？」

こんなおかしな事言うんだから人もあんま寄り付かないわな

俺は本日放課後二回目の時間確認をする、時計の針は7時45分、今ならもう心地よく転寝気分だ、さようなら、俺の幸せパラダイス

「何、大丈夫だ、いつもどおりにしてれば良い」

「お？ホントかそれは良かったなわけないだろおおおおおおお

うううううがああああ!!!」

立った直後に言われて俺はえびぞりになりながら後に倒れていった、もうすぐでブリッジができてしまう所だったのに

腰の痛さに今体感し、手で腰を擦りながら立ち上がった

それから冬花の肩をがっちりつかみ、俺の気持ちを体内から全て吐き出す

「俺はそんな事に付き合う気持ちはない、忙しいんだよ」

肩から手をはなし、ドアの手前まで向かう

「なに、お前なら素敵な人が見つかる、愛するがゆえに見守る愛もあるのさっ!」

俺は今までにない、気持ち悪いぐらいの素敵スマイルを冬花にむけ、そのまま教室を出ていく

「家にあるタンスの一番左下、下着をいれてあるその奥の奥には秘密の本」

一歩踏み入れた直後俺は石化した

「ナンデスカソレー、ナンデソンナコトイウンデスカー」

体が勝手に180度回転して冬花に吸い込まれてしまう

「ナ、ナンノコトカシラー」

「関谷が言っていたぞ、あんなもの出回ったら法律にひっかかるんじゃないか？放送禁止用語だ、作品名がピーーーーーか？後はピーーーーー！か？ここで喋っても放送禁止になってしまう」

「な・・・セキヤ・・・？」

「関谷くんが嬉しそうに話してた」

その言葉が俺の心をメラメラと燃えさせた

明日はあいつを殴る、絶対殴る

「ま、そういう事だから私には逆らえない、チガイホウケンだ」

その言葉が消化剤となり、今の現状が俺のさっきの殺る気、滅気を消滅させる

俺は手と膝を床につけ、そのまま10分ぐらい魂が抜けた

俺は心の中で一つの言葉が浮かんた

タスケテ・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4902f/>

カレシとカノジョ（仮）

2010年10月10日03時59分発行